

3年間登校支援した生徒について

【港区立A中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校5年生の2学期より不登校になった。中学校入学直後は登校して教室で授業を受けていたが、しばらくしてから再び不登校となった。以降、保健室登校を継続して行っている。現在は、希望の進路先が決まり、入学試験に向けた準備を行っている。

具体的な取組

生徒の学校復帰のきっかけとなるよう、ハイブリッド型オンライン授業やオンライン教育相談などのタブレット端末を活用した取組を行っている。

また、クラウドを利用して資料等のやりとりを定期的に行っており、生徒に学校や学年の様子を伝えている。

保健室登校の際には、学級担任や学年教員、養護教諭など教職員が連携し、個別支援を行っている。個別支援については、本人の希望する教科の学習指導をしたり、進路指導をしたりしている。

また、定期的に管理職が校長室で同様の個別支援を行っている。

年間1回の保護者アンケート（学校評価）と年間3回の生徒アンケート（6月、11月、2月、うち2回は、ふれあい月間アンケートに含めて実施）を実施し、分析することにより、「不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくり」の視点での教育活動の改善に取り組んでいる。

毎週、管理職・不登校対応加配教員・養護教諭・スクールカウンセラーで構成する特別支援委員会を開催し、不登校生徒一人一人の状況を踏まえた上で、今後の支援策を協議している。



成果

保健室での個別支援により、生徒が卒業後の進路に興味を示して作文や面接の練習に取り組み、1週間続けて保健室登校するなど登校意欲が高まった。

その結果、昨年80日であった生徒の欠席日数は、令和4年10月末時点で20日となっており、1年間を通して大幅な減少が見込むことができる。



課題

保健室登校することが習慣化してきてはいるものの、教室に入って一緒に学習するまでには至っていない。